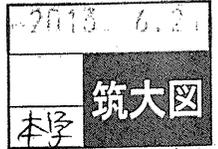


# 障害科学研究

2011年3月31日発行  
第35巻



- 特別論文**
- 1 Robinson THAMBURAJ :  
Inclusive Education in India - An overview on policies and practices
- 原著**
- 7 相羽 大輔・河内 清彦 :  
弱視学生の援助要請に対する健常学生の援助遂行可能性に及ぼす個人要因の効果について
- 19 大平 道子・永田 真吾・東原 文子 :  
学習困難児に対するコンピュータ教材を用いた説明文構造理解の指導
- 31 高野 聡子 : 川田貞治郎の「教育的治療学」の体系と内容の変化  
- 藤倉学園創設期から昭和戦中期を中心として -
- 資料**
- 49 中村満紀男・岡 典子 :  
新しい日本障害児教育史像の再構築のための研究序説
- 65 栞見瑛莉佳・佐島 毅 :  
盲幼児の日常生活動作獲得の発達の特徴に関する研究  
- 食事・着脱衣・清潔領域における視点から -
- 79 本間 貴子・米田 宏樹 :  
20世紀初頭ニューヨーク市固定型精神薄弱学級指導主事E.ファレルによる生活活動体験を配列したカリキュラムの形成
- 95 キャラミ・マースメ・河内 清彦 :  
昭和初期における日本点字図書館の事業継続要因として失明軍人の果たした役割
- 109 左藤 敦子・相澤 宏充・四日市 章 :  
聴覚障害児における心的動詞の産出の特徴
- 121 渡邊はるか・前川 久男 :  
特別な教育的ニーズのある中学生の学業適応感と学校生活適応感の関係  
- 情緒障害特別支援学級(固定)に在籍する生徒の本人調査からの実態 -
- 135 丹野 傑史・安藤 隆男 :  
肢体不自由養護学校における特別学級の設置と教育課程の展開  
- 東京都立肢体不自由養護学校に着目して -
- 147 村本 浄司・園山 繁樹 :  
常同行動を示す自閉症者に対する活動スケジュールを使用した余暇支援  
- 職員への要求行動の形成を通じた余暇活動の維持の検討 -
- 161 一木 薫・安藤 隆男 :  
重度・重複障害教育担当教師の描く指導の展望の背景と日々の職務への影響
- 177 Joseph ONG and Yasuyoshi KATO :  
Mode of communication on physical education: In teaching deaf and hard of hearing students
- 185 山田 康広・米田 宏樹 :  
「精神薄弱」教育の独自性と通常教育との共通性  
- 『昭和37年度養護学校小学部・中学部学習指導要領精神薄弱教育編』の内容項目の検討 -
- 実践報告**
- 197 上野 茜・野呂 文行 :  
機能的アセスメントに基づく自閉性障害児に対するトークンシステムを用いた家庭内支援に関する検討
- 209 神山 努・野呂 文行 :  
自閉性障害児の絵カードを用いた要求行動に対する保護者支援



- Special thesis
- 1 Robinson THAMBURAJ  
Inclusive Education in India – An overview on policies and practices
- Original Articles
- 7 Daisuke AIBA and Kiyohiko KAWAUCHI  
The effects of personal characteristics of students without disabilities on their reactance to help-seeking behavior of peers with partial sight
- 19 Michiko OHIRA, Shingo NAGATA and Fumiko HIGASHIBARA  
Teaching expository text structure to children with learning difficulties using computerized materials
- 31 Satoko TAKANO  
A Study on the system of Teijiro Kawada's "Educational Therapy", and change of the contents, 1919-1944
- Brief Notes
- 49 Makio NAKAMURA and Noriko OKA  
New Design of Historical Study on Education of Children with Disabilities in Japan – Introductory Remarks
- 65 Erika MASUMI and Tsuyoshi SASHIMA  
Developmental characteristics of activity of daily living in children with blindness
- 79 Takako HOMMA and Hiroki YONEDA  
Development of the curriculum that arranges life activities by E. Farrell, inspector of Ungraded Classes Department in the early twentieth century New York City.
- 95 Karami MASUME and Kiyohiko KAWAUCHI  
The role of blind soldiers as a factor of the continuation and undertaking of the Japan Braille library in the early Showa period
- 109 Atsuko SATO, Hiromitsu AIZAWA and Akira YOKKAICHI  
The feature of the production of mental verbs in children with hearing impairments
- 121 Haruka WATANABE and Hisao MAEKAWA  
Perception of academic achievement and school adaptation of students with special educational needs: Investigation of special education class for students with emotional disturbances in junior high school
- 135 Takahito TANNO and Takao ANDO  
A Study on Curriculum Development of Special Class in School for the Physically Handicapped
- 147 Johji MURAMOTO and Shigeki SONOYAMA  
Leisure support using an activity schedule for an autistic person with stereotypic behaviors: Examination of maintenance of leisure activities through shaping of requesting behavior toward rehabilitation facility staff
- 161 Kaoru ICHIKI and Takao ANDOU  
Influence of the prospect for teaching and difficulties or uneasiness about classroom lessons on daily work of teachers for children with profound and multiple disabilities
- 177 Joseph ONG and Yasuyoshi KATO  
Mode of communication on physical education: In teaching deaf and hard of hearing students
- 185 Yasuhiro YAMADA and Hiroki YONEDA  
Comparing Course of Study for Children with Mental Retardation in 1963 with that for Kindergarten, Elementary School and Junior High School
- Practice report
- 197 Akane UENO and Fumiyuki NORO  
Family-based intervention to use a token reinforcement system for a child with autism based on functional assessment
- 209 Tsutomu KAMIYAMA and Fumiyuki NORO  
Effects of parent training on requesting behaviors with picture cards of a young child with autism.

編集委員長	四日市 章 (筑波大学)	池田由紀江 (健康科学大学)
編集委員	安藤 隆男 (筑波大学)	尾崎 久記 (茨城大学)
	梅永 雄二 (宇都宮大学)	蒲生 俊宏 (日本社会事業大学)
	柿澤 敏文 (筑波大学)	齋藤 佐和 (目白大学)
	河内 清彦 (筑波大学)	鄭 仁豪 (筑波大学)
	園山 繁樹 (筑波大学)	前川 久男 (筑波大学)
	中村満紀男 (東日本国際大学)	
審査委員	安藤 隆男 (筑波大学)	安藤 房治 (弘前大学)
	池谷 尚剛 (岐阜大学)	石田 久之 (筑波技術大学)
	浦崎 源次 (群馬大学)	大内 進 (国立特別支援教育総合研究所)
	岡 典子 (筑波大学)	岡崎 慎治 (筑波大学)
	岡田英己子 (首都大学東京)	尾崎 久記 (茨城大学)
	柿澤 敏文 (筑波大学)	加藤 靖佳 (筑波大学)
	蒲生 俊宏 (日本社会事業大学)	河合 康 (上越教育大学)
	川間健之介 (筑波大学)	草薙 進郎
	熊谷 恵子 (筑波大学)	小島 道生 (岐阜大学)
	小林 秀之 (筑波大学)	齋藤 佐和 (目白大学)
	佐々木順二 (聖徳大学)	佐島 毅 (筑波大学)
	澤 隆史 (東京学芸大学)	園山 繁樹 (筑波大学)
	竹田 一則 (筑波大学)	趙 源逸 (京畿大学校)
	鄭 仁豪 (筑波大学)	長崎 勤 (筑波大学)
	中村満紀男 (東日本国際大学)	中山 哲志 (東京成徳大学)
	中山 健 (福岡教育大学)	生川 善雄 (千葉大学)
	野口 武悟 (専修大学)	野口 幸弘 (西南学院大学)
	野呂 文行 (筑波大学)	原島 恒夫 (筑波大学)
	藤原 義博 (筑波大学)	細川かおり (鶴見短期大学)
	前川 久男 (筑波大学)	松岡 勝彦 (山口大学)
	宮寺 千恵 (千葉大学)	武蔵 博文 (香川大学)
	柳本 雄次 (十文字学園大学)	山中 克夫 (筑波大学)
	結城 俊哉 (筑波大学)	吉井 勘人 (筑波大学附属大塚特別支援学校)
	四日市 章 (筑波大学)	米田 宏樹 (筑波大学)
編集幹事	岡 典子 (筑波大学)	

## 障害科学研究

第 35 卷 (2011, Vol. 35)

平成 23 年 3 月 31 日 発行

編 集 障害科学学会 編集委員会

発 行 障害科学学会 会長 中村 満紀男

発行所 障害科学学会  
〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1  
筑波大学障害科学系内  
FAX 029(853)6504  
e-mail adsj@human.tsukuba.ac.jp

印刷所 前田印刷株式会社筑波支店  
〒305-0033 茨城県つくば市山中152-4  
電話 029(875)6696

## 投稿規定

1. 本誌は、障害科学学会の機関誌であり、年1巻発行する。なお巻号は前身の雑誌である「心身障害学研究」を引き継ぐものとする。
2. 本誌の執筆者は障害科学学会会員に限る。
3. 本誌の編集は、障害科学学会編集委員会の責任のもとに行われる。
4. 本誌には未公開の和文または英文で書かれた障害科学に関する「原著論文」、「短報」、「資料」、「実践報告」、「展望」のほか、編集委員会が認めた論文等を掲載する。このうち、「原著論文」は、理論的、実験的または事例的な研究論文で、オリジナルなものとする。「短報」はそのようなオリジナルな研究の途中経過や一次的な報告を指す。これに対し、「資料」は、調査、統計に関するもの、歴史的に価値ある文献資料の紹介、方法論的試論、新しい実験装置の紹介、内外諸研究の追試検討したものとする。また、「実践報告」は実践報告会、事例検討会等でモデルとなりうる報告、「展望」は障害科学に関係のある課題について、内外の諸研究の成果を総合的に概観・展望したものとする。
5. 論文は、査読委員によって審査され、編集委員会において、その掲載の可否が決定される。
6. 規定枚数を超過したもの、および図表、写真等の製版・印刷等、特に費用を要するものは、別途執筆者の負担とする。
7. 別刷りは執筆者の負担とする。
8. 本誌に掲載された論文等の著作権は障害科学学会に帰属し、無断で複製あるいは転載することを禁ずる。
9. 投稿論文の内容について、十分に人権および倫理上の配慮がなされていなければならない。

## 執筆規定

1. 原稿の仕様 原則としてワープロを用い、A4判用紙に25字×32行（800字）で印字された原稿を提出すること。A4判用紙の原稿2.5枚は刷り上がり1頁に相当する。和文では、本文、文献、図表、要約をすべて含めた論文の刷り上がり頁数は、原著論文、資料、実践報告、展望は10頁を上限とする。英文では、本誌8頁（approximately 550 words per page; including Abstract, References, Tables, and Figures）を上限とする。また、短報は和文で5頁、英文で4頁とする。これを超過する論文については、編集委員会が掲載の可否を決定する。
2. 提出原稿 原著論文・資料ともに、オリジナル1部とコピー2部を添えて提出すること。また提出原稿はA4判とし、表紙には和文表題、英文表題、執筆者名、代表者の連絡先（電話番号を含む）を明記すること。なお、論文採択後には電子ファイルを提出する。
3. 図表など 白紙に黒色インクで明瞭に書かれたものを用い、写真を用いる場合は鮮明なものを提出すること。表や図の番号はTable 1, Fig. 1のように記入し、表題、説明ともに一括して別紙に記載すること。また、本文中にその挿入箇所を明示すること。
4. 和文要約 和文論文および英文論文には、問題、方法、結果、結論の概要をほぼ把握できるように、和文で400字以内の要約と3～5項目の和文キーワードを本文とは別葉にて提出すること。
5. 英文要約 和文論文および英文論文には、英文表題、200～300ワードの英文要約、3～5項目の英文Key Wordsを本文とは別葉にて提出すること。
6. 表記 新かなづかい、常用漢字、算用数字を用いること。外国人名・地名等の固有名詞以外はなるべく訳語を用い、必要な場合は初出の際にだけ原語を付す。文献は論文の最後にアルファベット順に一括して示すこと。雑誌文献記述の形式は、著者名、発行年、題目、雑誌名、巻数、論文所在頁の順とし、単行本文献記述の形式は、著者名、発行年、書名、出版社、出版地の順とする。
7. 註 必要がある場合は、本文中に1)、2) …のように上付きの通し番号で註を付し、すべての註を本文と文献欄の間に番号順に記載すること。
8. 印刷形式 印刷の体裁は編集委員会に一任する。
9. その他 執筆に関する詳細は、日本特殊教育学会の『「特殊教育学研究」和文論文執筆の手引き』と、最新の特殊教育学研究英文特集号の表紙裏Information for Contributorsに従うこと。